

フィンランド生まれの「ムーミン」は、大人にも子どもにも人気が高いキャラクターですよね。絵本の中で、ムーミンたちが北欧の短い夏を謳歌するように、夢中でベリー摘みするシーンがとても印象的なのですが、青森県の下北半島にも様々なベリーを栽培し、魅力的な商品を開発している方がいます。ベリーオーチャド下北の大平貞仲さんと南さん親子です。

下北半島生まれのベリーソルトはこころ踊る天然色です



ベリーオーチャド下北【青森県むつ市】

「ベリーオーチャド下北」の名前を知ったのは、百貨店に並んだ「ベリーソルト」のラベルでした。小さなボトルに入った塩はとてもカラフル。虹色やかわいらしい模様が描かれていました。驚いたのは、塩の鮮やかな赤や紫、濃淡のピンク色がベリーで染められていること、そしてそのベリーが下北半島で作られていることでした。

「神奈川県出身ですが、仕事で小笠原諸島に赴任した後、縁あってむつ市へ移住しました。180度違う環境に来たという感じです」と話すのはベリーオーチャド下北を運営する有限会社下北半島ネットワークの代表取締役・大平貞仲さん。当初はインターネットの仕事を中心にしていました。

「下北半島には特産といえるフルーツがないですね」という知人との雑談がきっかけとなり、欧米諸国では広く流通されているものの日本では一般的でない種類のベリーに焦点をあて、栽培することになりました。

むつ市の冬の寒さは厳しく、最低気温はマイナス15度になることもあります。夏も季節風



12



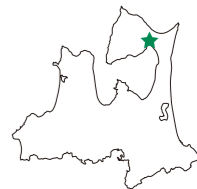
11



10



9



ベリーオーチャド下北  
青森県むつ市緑ヶ丘13番6号  
TEL.0175-23-2168  
<http://www.0175.co.jp/berry/>

「やませ」が吹くなど、農作物の栽培には厳しい環境です。「2003年からベリーの栽培を始めましたが、試行錯誤の連続です」と大平さん。栽培技術を磨きながら、ベリーを使ったオリジナルの商品開発も進めました。

「ベリーを下北半島の特産品にしたい。そのためにはベリーを活かした競争力のある商品を作らなければと工夫を重ね、できたのがベリーソルトです」。そんな大平さんのパートナーが娘の南さん。大学で洋画を学んだ経験を生かし、ベリーソルトの模様やパッケージデザインなどを担当しています。

「ものづくりはおもしろくもあり、難しくもありです。一番難しいのはコスト管理を担当する父との折衝かも」と笑顔を見せる南さん。

お二人には次の夢があります。それは地域の人たちとも連携しながら、ベリーの摘み取りや食事、ショッピングを楽しめる企画の実現です。近い将来「夏はベリー狩りに下北へ」というツアーが人気になるかもしれませんね。

- ①④雨上がりでキラキラ光っているのはレッドカラント。日本では赤房スグリと呼ばれています。北欧諸国で盛んに栽培され、長い冬のビタミン源になっています。
- ②③今、一番力を入れているポイズンベリー。甘酸っぱく、豊潤な香りが魅力。アントシアニンというポリフェノールが豊富で美容に効果が高いそう。
- ⑤ベリーソルトのパッケージは人気商品。「タレ目をバランスよく入れるのが難しいです」と南さん。
- ⑥大平さんのベリー畑ではポイズンベリー、ブラックベリー、レッドカラント、ホワイトカラント、アロニア(チョコベリー)、ブルーベリー、カシス、ブーズベリー、ケープグーズベリー(食用ホオズキ)を栽培しています。
- ⑦もうすぐ販売予定のソルトセット。真っ白いおむすびに、ベリーソルトでお絵かきしたいですね。
- ⑧ピンク色、赤、紫色はベリーの色。オレンジ色はニンジン、緑はホウレンソウ、黄色はカボチャの色素を使っています。
- ⑨猫ちゃん(右)とワンちゃん(左)が瓶に閉じ込められたみたい。
- ⑩ボトルの上下を反対にして、こけしのシルエットを表現。
- ⑪ポイズンベリーの手作りティ。色がとってもきれい。香り豊かでとてもおいしいんです。
- ⑫自作の油絵をバックにした南さん(右)。シャイな貞仲さんは、控えめに出演いただきました。

※夏に北東から吹く冷たく湿った季節風。農作物の生育にも大きな影響を与えます。